

発信 新アジア

10

昨年末、韓国が待望していたソウル-北京空路が開通された。韓中航空協定の締結によるもので、同時に上海、天津、青島、瀋陽とソウルの間の路線も正式開設となり、韓中を結ぶ「黄海航空圏」が一気にできあがった。

このソウルからは既に日本の十七都市との間に路線ができており、今年中にはこれが十九都市にまで拡大する。ソウルを中継しての日中往来も可能になった。

一方、韓国は一九九九年開業を目標にソウル西郊の仁川沖、永宗島(ヨンジョンド)にアジア最大の国際空港を建設中だ。最終計画の二〇二〇年までに四千級滑走路四本を建設することになっており、日本と中国をにらんだ旅

発想の転換



客と物流の大拠点が生ずる。韓国は近年、自らを日中をつなぐ「アジアの懸け橋」として着々、地歩を固めつつある。金泳三大統領は年頭の記者会見で、「二十一世紀の一流国家」を目指し「世界化」による国際競争力の強化を強調した。今年をヤマに一人当たりGNP一万ドル、輸出一千億ドル達成を約束している。不況が続く日本をしり目に、昨年

アジアの懸け橋へ着々

日本と「互恵」模索

の成長率八%という経済の好調に支えられた意気込みである。そこで、日本からは韓国企業の技術力、生産力を評価し、イコールパートナーとして協力を探るという。日本から見て韓国は、貿易黒字が昨年は百億ドルを超した大のお得意さんで、貿易相手国としては世界で第五位にあたる。日韓の人の往来は双方二百五十万人でお互い最大の交流相手である。

こんな韓国なのに、日本では「新しい協力関係構築期」を迎えているという。

は「アジア」というと近年、話はどうも韓国抜きなのだ。韓国は日本にとってそんなに魅力がないのか、日本は韓国に冷たすぎるのでは、とソウルでは不満の声が強い。

「韓国見直し」論者の大隈暉・東京銀行韓国総支配人にいわせると、日韓間のビジネスは初期の「低価格生産基地」としての進出期から「コスト高による撤退期」を経て

「新しい協力関係構築期」を迎えているという。そこで、日本からは韓国企業の技術力、生産力を評価し、イコールパートナーとして協力を探るという。日本から見て韓国は、貿易黒字が昨年は百億ドルを超した大のお得意さんで、貿易相手国としては世界で第五位にあたる。日韓の人の往来は双方二百五十万人でお互い最大の交流相手である。

韓中航空路の開通を祝う式典で、テープカットする両国関係者



● 韓 国 ●

大隈氏の話はさらに「黄海経済圏」に広がる。黄海を取り巻く中国東北、韓国、日本の九州の人口、生産力は欧州連合(EU)に匹敵するといふ。例えば造船世界一位、半導体(メモリー)世界の二五%、鉄鋼年産一億ト、自動車生産五百万台など。あとはEU並みへの消費力の拡大が待っている。

大隈氏は「日本ビジネスは韓国に警戒心が強すぎる。取るか取られないかで共存・アジアのイギリスになるなら、われわれはアジアのフランスになる」という。また、江戸時代の実学者、石田梅巖の「商売は先も立ち、我も立つ」を引用しながら「日韓互恵主義」への発想の転換を主張する。

百年前、日本の明治維新をモデルに朝鮮近代化を目指した志士・金玉均は「日本がアジアのイギリスになるなら、われわれはアジアのフランスになる」という。また、江戸時代の実学者、石田梅巖の「商売は先も立ち、我も立つ」を引用しながら「日韓互恵主義」への発想の転換を主張する。

百年前、日本の明治維新をモデルに朝鮮近代化を目指した志士・金玉均は「日本がアジアのイギリスになるなら、われわれはアジアのフランスになる」という。また、江戸時代の実学者、石田梅巖の「商売は先も立ち、我も立つ」を引用しながら「日韓互恵主義」への発想の転換を主張する。

(ソウル 黒田勝弘)

おわり